

観光振興セミナー 2025

オープン・ラボ Online
～観光の新たなカチ・カタチ～

「帰る旅」
関係“行動”人口が拡張する地域の持続可能性

2025年6月12日（木）
株式会社リクルート じゃらんリサーチセンター
客員研究員 北嶋 緒里恵



▲本講演資料はこちらのQR
コードからDLいただけます



編集者

2003年株式会社リクルートに入社
旅行情報誌の編集デスクを担当

旅行・観光 自治体事業 プランナー

2009年じゃらんリサーチセンター配属
自治体と共に観光による地域活性プランニングを担当
地域が抱える課題解決に取り組む

旅行・観光 分野研究員

2014年4月じゃらんリサーチセンターの研究員に着任
根幹テーマは、新たな旅行需要活性
旅行・宿泊マーケット、地域の観光経営組織などを
フィールドに活動、各種外部委員や講演も担当

株式会社リクルート
じゃらんリサーチセンター
客員研究員

北嶋 緒里恵

きたじま おりえ

2022年1月より「帰る旅」プロジェクトを立ち上げ
「帰る旅研究会」共同代表

2022年4月より

じゃらんリサーチセンター客員研究員として活動

出身は名古屋市

(三種の神器「草薙神剣」で有名な熱田神宮近辺)

“ただいま” “おかえり”で始まる旅

何度も、ある地域へ、ある場所へ通う旅

移住・2拠点居住のちょっと手前

いつもの旅行の少し先

「場と関係性」で育まれる、旅のかたち



じゃらんリサーチセンター＋一般社団法人 雪国観光圏が共同で
2022年1月に運営組織「帰る旅研究会」を立ち上げ
今期で4年目を迎えるプロジェクト



- 観光庁「観光白書（令和7年度）」に事例掲載
- 観光庁「第2のふるさとづくりプロジェクト事業」と連携（2022～2025年度）
- 「ジャパン・ツーリズム・アワード2024」審査員特別賞を受賞
- 「Peatixコミュニティアワード2025」拠点コミュニティ賞を受賞



「行く旅（旅行）」 = 従来型レジャー旅行との比較

「行く旅」

お客さま

いらっしやいませ

よそ者として接待

確かな価値

してもらう

もてなされる関係

「帰る旅」

仲間

おかえり

迎え入れられる

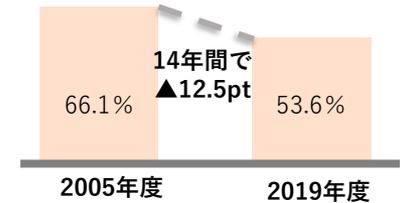
予測不可能な出会い

ちょっと手を貸す

共につくる関係



- 国内宿泊観光旅行の実施率



出典：じゃらんリサーチセンター
「じゃらん宿泊旅行調査2006/2020」

業界

旅行マーケットの現状課題 (国内宿泊旅行実施率の低迷傾向)

- コロナ禍前より年々低下傾向に
- 現状の観光政策のみで
マーケット全体のシュリンクは止められるか？
- 既存の従来型旅行需要以外に
新たな旅行需要を育てる必要があるのでは？**

社会

ユーザーのライフスタイル変化 (コロナ禍で働き方・生き方の変化が加速)

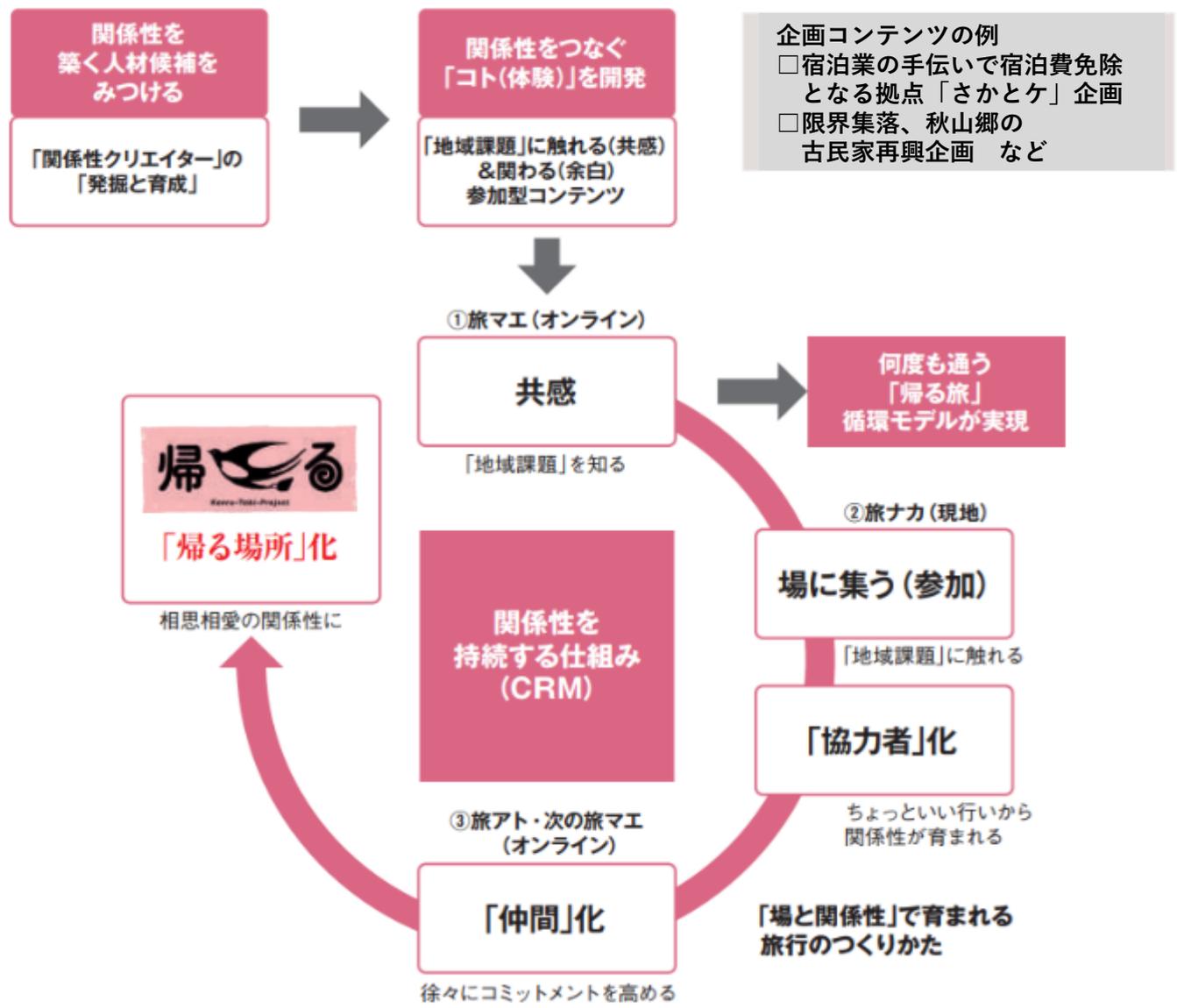
- テレワークが増え、ワーケーションという概念が出現
WORK/LIFE/TRAVELの境界線のあいまい化が進行
- テレワーク実施者は、1stプレイスの自宅で仕事。2ndプレイス（職場・勤務先）との
接点が弱くなり、3rdプレイス的なよりどころの重要性に気づく人も増加
- 選択的週休3日制を導入する大手企業も増加
- 「自分はどうありたいか（働き方・生き方）」を自然と考える時代に**

業界

新たなビジネスモデルの出現 (“暮らすように”旅する→ “暮らしながら”旅する需要も顕在化)

- 2018年、住宅宿泊事業法（民泊新法）が施行、「民泊」が生まれる
- 近年、多拠点居住の“アドレスホッパー”向けサービス
(定額住み放題サービス) が新ビジネスとして登場
- コロナ禍、都市型ホテルで暮らす“サービスアパートメント”プランが話題に
- 旅行業界内・周辺に、イノベーションと新たな潮流の兆し**

業界・社会の変化で、新たな旅行需要開拓の必要性が見えてきている
地域側が主となり「3rdプレイス的な居場所」を旅先につくることに
新たな旅のかたちとしてのポテンシャルがあると考え
「帰る旅」プロジェクトを立ち上げることとなりました



- 企画コンテンツの例
- 宿泊業の手伝いで宿泊費免除となる拠点「さかとけ」企画
 - 限界集落、秋山郷の古民家再興企画 など





帰る旅
宿泊滞在拠点（通年）



年間好きな時に利用可
各拠点で家業のお手伝いワークを
行うと宿泊無償に



新潟県南魚沼市



湯沢町
にしなかケ



十日町市
いなりケ
(福祉業)



松之山温泉
ゆもとケhina



松之山温泉
ゆもとケtama

※宿泊業4拠点+福祉業1拠点（障がい者ワークセンター）



期間限定
イベント企画（随時）

帰る旅研究会メンバーが主催
地域しごとにサポーターとして参加

「帰る森」



南魚沼市



間伐や植樹を通して
森の再生と新たな価値を発見

「古民家再興」



津南町秋山郷・魚沼市



旅行者×地域の交流拠点を
各地でつくるプロジェクト

「帰る海」



上越市



柿崎海岸でゴミ拾いから
海・人・まちをつなぐ企画

ほかにも「週末雪掘りボランティア」「田植え・稲刈り」など
季節イベントを計画中

※企画によって参加費は異なります



「帰る旅」の場には、
余白（関わりしろ）がある
よって**役割**が生まれ、**行動**（ワークの提供）が生まれる
↓
だから、**居場所**（居ても良い場所・帰る場所）と感じる
↓
行動することで、**仲間**として対等な**関係性**が育まれ（＝関係“行動”人口化）
「**帰る場所**」となる



×



=



例：宿のお手伝いワークで宿泊無償となる帰る旅宿泊滞在拠点（さかとケなど）

インフォーマルな場と関係性をベースとした「相互支援」

※インフォーマルとは
業務外や非公式での場、その場で出会った関係性などお互いにプレッシャーやリスクはないが、思想面や興味関心の重なり・近似性はある

「帰る旅」のこれまでのステップ

運営 活動 参加者延べ
人材数 エリア 域内泊数*

2022
1期目

「帰る旅」
の基礎となる
仕組みづくり

- 「帰る旅研究会」を立ち上げ
- コンセプト・仕組みを検討・決定
- 家業手伝い×宿泊無償受け入れ拠点
代表例の「さかとケ」が誕生
- 「関係性クリエイター」人材育成研修を開始**

9名 南魚沼市 29泊

2023
2期目

企画の多様化と
エリアの拡大

- 「さかとケ」モデルの複数拠点化
(計5拠点/宿泊業4拠点・福祉業1拠点)
- 「古民家再興」「旅館リニューアル」など
イベント企画(ツアー形式)の開始
- 都内で疑似体験イベントを開始し接点強化

19名 湯沢町、
津南町、
十日町市
に拡大
312泊

2024
3期目

複数回来訪
の仕組みと
新たな場づくり

- 「帰る旅地域クリエイターズCAMP2025」実施
- 来訪者が地域で挑戦する場
- 「帰る旅シェア型拠点」の取り組み開始
- 新潟県庁UIターン施策・湯沢町施策で
自治体連携の拡大

22名 魚沼市、
上越市
に拡大
県庁連携
334泊

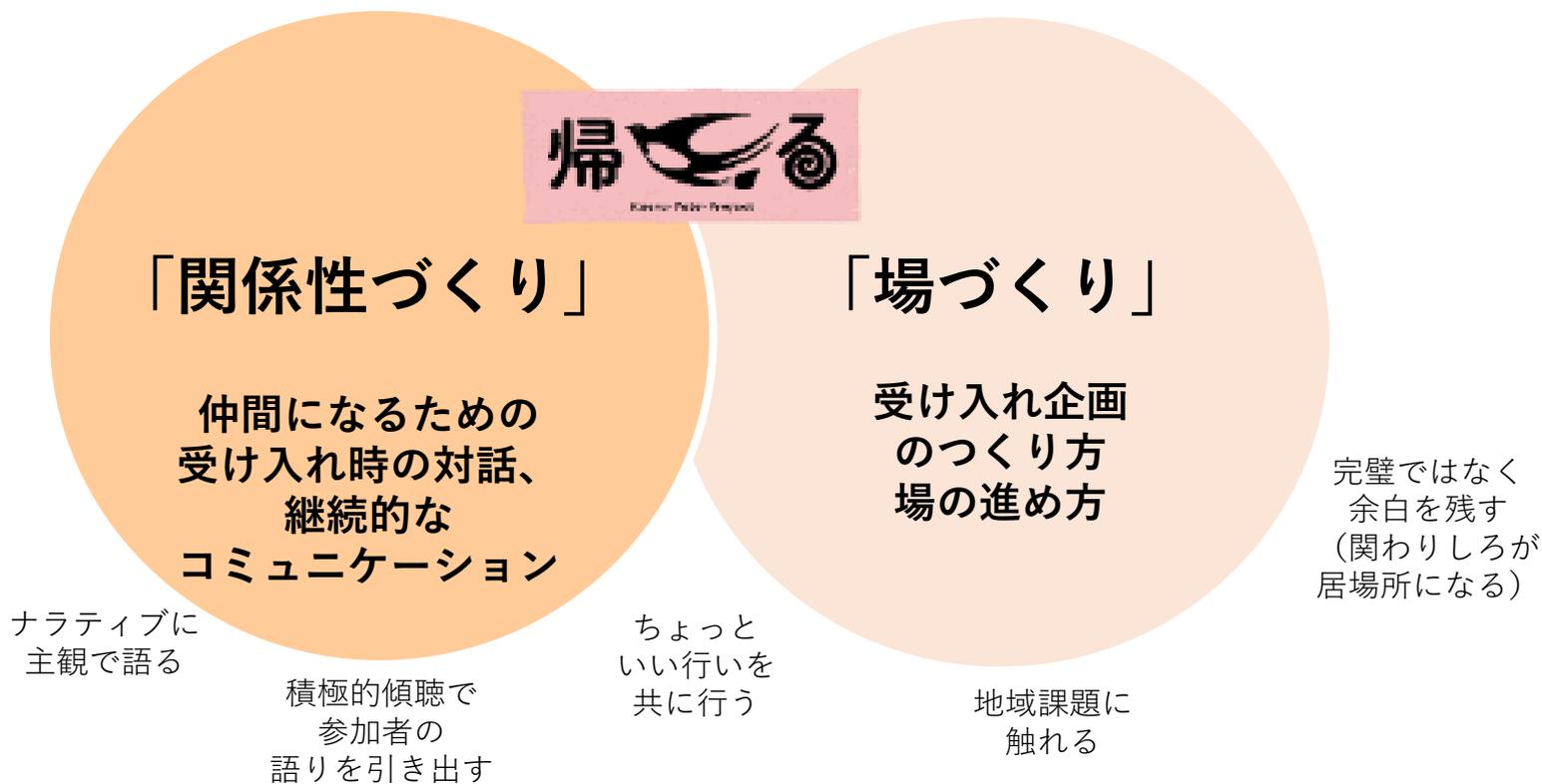
Topics : 國學院大学の学生が自発的に「帰る旅学生サークル」設立(約50名所属)

*運営拠点泊(実績) + 宿泊付企画泊(実績) + 宿泊なし企画参加者の周辺外部施設泊(推計値)含む

2025

地域の持続可能性拡大に向けた新価値創出へ

- 2022年（1期目）より「帰る旅」をつくる地域人材を育成プログラム「関係性クリエイター育成ワークショップ」をスタート
- 従来型レジャーのように「お客様」としておもてなしするコミュニケーション手法や受け入れ企画の開発手法と、「仲間」になりたい人向けの手法は異なると想定し「関係性づくり」「場づくり」のプログラムを開発
- またこのメソッドは、関係性クリエイターが所属する運営組織「帰る旅研究会」の組織づくりにも応用している（例：定例会議の運営手法など）



「帰る旅」をつくる 関係性クリエイター育成ワークショップ

プログラムの狙い

- 2022年度より年1回開催（4回目の最新回2025年1月は26名参加）。
- 旅行者（帰る旅参加ユーザー）×地域・住民をつなぐ「関係性づくり」「場づくり」を学ぶ。
- 企業のリーダー人材育成・チームビルディング手法のメソッドをもとに帰る旅用に開発。座学だけでなく、グループでの対話、ロールプレイも交えた実践型で学ぶ。

参加者イメージ

- 自治体、DMO・観光協会、地域おこし協力隊、宿泊業等の民間企業経営層・リーダー層など（主に雪国観光圏内）
- 関係人口を活用した新たなつながりを事業活動に活かしたい方
- 働く・暮らす自地域の未来を、ご自身で築いてみたい方 など



- 約12時間（2日間）のプログラムを通して
取り組みたい企画アイデアを各自がアウトプット
- ワークショップ参加後、「帰る旅研究会」へ今後参加したいかを確認する流れ

関係性づくり

場づくり

1 コーチング

「関係性」
を築くスキル

帰る旅参加ユーザーと「仲間としての信頼関係」を築くために、「共感力」を高め「積極的傾聴」のスキルを学ぶ。参加者側の感情、参加目的や背景を理解する。

(例)

- ・自己・他社理解（ソーシャルスタイル分析）
- ・積極的傾聴ロールプレイ

2 ファシリテーション

「関係性」を育て
「場づくり」を行うスキル

当日の受け入れシーンを想定したロールプレイ（演習）で学ぶ。自分の想いを伝え、相手の意見を引き出すコミュニケーションの深め方を実践的に学ぶ。

(例)

- ・チェックイン／アウト時を想定した進行台本を用意し実践、改善点をフィードバックする

3 プロジェクト マネジメント

自分のパーパスに基づき
企画を生み実現する
ための基礎スキル

自分自身の価値観や強みを引き出し「私のパーパス」として言語化。これを源泉とした企画の設計、計画プロセス、タスクなどのノウハウを学ぶ。

(例)

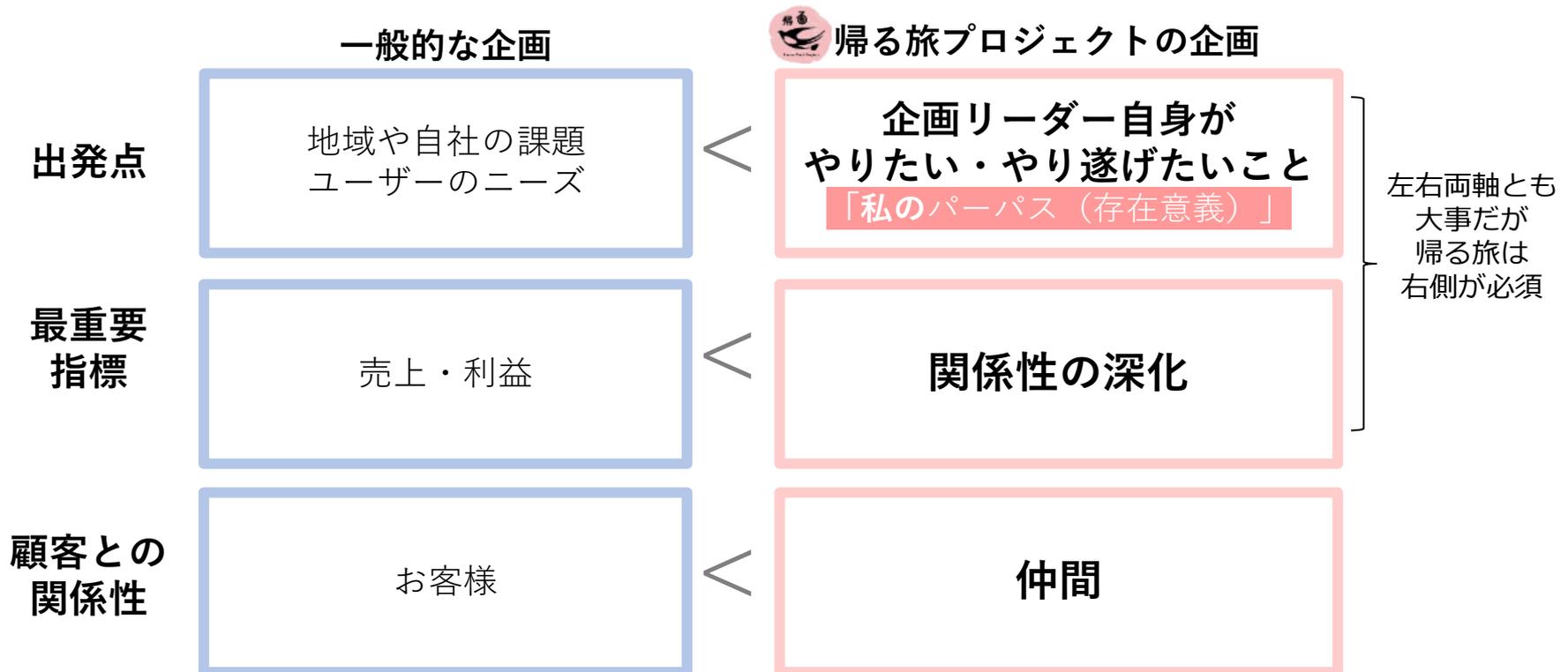
- ・「私のパーパス」の探求
- ・プロマネに必要なノウハウ

- 「**パーパス (purpose)**」とは、社会における**存在意義**のこと
※参考：企業の「パーパス経営」
社会における自社の存在意義（何のために存在するのか）を言語化し
社会貢献+利益創出の実現を目的とする経営手法
- 「帰る旅」が企画づくりに推奨する「**私のパーパス**」は
 - ・自分自身はどのような人間なのか
 - ・自分にとっての幸せとは何か
 - ・自分自身が人生において成し遂げたいことは何か …といった
「自分自身の人生の意義や目的」あるいは「活動する意義」をしめす
- ワークショップ内では「**私のパーパス**」を掘り下げ言語化した上で
帰る旅参加ユーザーを仲間として巻き込み、
自身の企画を実現することで
社会においてどんな存在意義を残したいのか？
どうなれば自分自身のパーパスへ一歩近づくのか？を
イメージし企画に活かす

※出典：関係性クリエイターワークショップ資料より一部引用
(株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング ©People Focus Consulting、帰る旅研究会で共同作成)

● 「帰る旅」企画の特徴

- ・ 帰る旅参加ユーザーの「帰る場所」には、通う・再び帰るための「場（企画や拠点）」と「継続的な関係性」が必要
- ・ そのためには「場」の持続可能性を高めることも重要（×単年で終了）
- ・ **各企画リーダー（立ち上げ者）自身の「パーパス」に基づく企画**であれば強いモチベーションで、**企画を実現→持続することが可能では？**と考えた



「私のパーパス」

社会における存在意義
自分は何のために存在し、何のために活動するのか？

得意なこと
(自分の魅力、強み等)

自分自身が
活かせること
得意なこと
特徴や強みは何か？

**自分の
価値観**

自分自身が本当に
大切にしたいもの
このためなら
ワクワクする意欲をもって
取り組める
それは何か？

他者への貢献

自分以外の誰か
(他者・社会・世間)に
貢献できること
発揮できる価値は何か？

※出典：関係性クリエイターワークショップ資料より一部引用
(株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング ©People Focus Consulting、帰る旅研究会で共同作成)

● 構文

私は **得意なこと** を活かして

自分の価値観 をします／追求します。

それにより **他者への貢献** を目指します。

※出典：関係性クリエイターワークショップ資料より一部引用
(株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング ©People Focus Consulting、帰る旅研究会で共同作成)

● 関係性クリエイターの作成例

私は「**健康の知識とお米好き**」を活かして
「**お米の持つ健康の可能性**」を追求します。

それにより

「**参加者の心身の健康と魚沼の雪国・里山文化の継承**」
を目指します。

(二地域居住中、鍼灸師&米づくり&農泊施設開業予定の大滝さん)

私は「**自然に対する知識**」を活かして共有し
「**自然を身近に感じてもらう**」ことを
追求します。そのきっかけとして

「**森や自然とつながり**」をつくり、
「**興味を持つ場を提供する**」ことを目指します。

(ホテル総支配人で「帰る森」企画リーダーの小野塚さん)

私は「**情報と機会を編んでつなぐ、編集力**」を活かして

「**誰でも・何度でも・挑戦可能な機会を提供する**」ことを追求します。

それにより「**今日より明日、明日より3年後が明るいと感じられる社会**」
を目指します。

(「帰る旅」プロジェクトを推進する北嶋)

「帰る旅」のこれまでのステップ

運営 活動 参加者延べ
人材数 エリア 域内泊数*

2022
1期目

「帰る旅」
の基礎となる
仕組みづくり

- 「帰る旅研究会」を立ち上げ
- コンセプト・仕組みを検討・決定
- 家業手伝い×宿泊無償受け入れ拠点
代表例の「さかとケ」が誕生

9名 南魚沼市 29泊

- 「関係性クリエイター」人材育成研修を開始

2023
2期目

企画の多様化と
エリアの拡大

- 「さかとケ」モデルの複数拠点化
(計5拠点/宿泊業4拠点・福祉業1拠点)
- 「古民家再興」「旅館リニューアル」など
イベント企画(ツアー形式)の開始
- 都内で疑似体験イベントを開始し接点強化

19名 湯沢町、
津南町、
十日町市
に拡大 312泊

2024
3期目

複数回来訪
の仕組みと
新たな場づくり

- 「帰る旅地域クリエイターズCAMP2025」実施
- 来訪者が地域で挑戦する場
- 「帰る旅シェア型拠点」の取り組み開始
- 新潟県庁UIターン施策・湯沢町施策で
自治体連携の拡大

22名 魚沼市、
上越市
に拡大 334泊
県庁連携

Topics : 國學院大学の学生が自発的に「帰る旅学生サークル」設立(約50名所属)

*運営拠点泊(実績) + 宿泊付企画泊(実績) + 宿泊なし企画参加者の周辺外部施設泊(推計値)含む

2025

地域の持続可能性拡大に向けた新価値創出へ

- 初回来訪の動機は各自さまざま、個々の志向性やキャリア時期によって分かれる
- 再来訪・移住につながった動機は
「自己成長の機会」「人・環境への愛着」が共通項に



人はなぜ帰るのか？ 「帰る旅」リピーターの初回来訪動機×リピート来訪動機を一覧化（ユーザーインタビューより作成）

	初回来訪に繋がった要素	リピート来訪に繋がった要素			
		自己成長の機会	人・環境への愛着	ユニークなコンテンツ	本業でできない経験
01 レジャー延長型 エントリー  30代女性・公務員・未婚 （年5回来訪）	温泉（秘湯湯治） お得なキャンペーン	将来の仕事を疑似体験 本業への貢献	居心地の良さ チームで達成感	一連の流れを体感 手配困難な内容 レジャー以外の旅の楽しみ	副業禁止
02 ライフデザイン型 エントリー  50代男性・IT企業・既婚子あり （年10回程度来訪）	理想のライフスタイル 本業とのGAP	裁量権がある 地域貢献 チャレンジの機会	チームの一員 第3の場所 地縁の広がり	自由な現地時間	体を動かす機会
03 キャリア探求型 エントリー  20代女性・大学生 （のちにIターン移住）	確かな紹介筋 就職検討時期	自己実現の機会	環境への愛着 共働人材・組織への共感		

出典：2025年3月発行「とーりまかし別冊 研究年鑑」掲載

- 入口は気楽な「旅」からスタート→出口は居住に関わらず
思い・関わり・行動で地域を支える新たな人材として地域の持続可能性に寄与する

交流人口

複数回来訪

関係“行動”人口

定住人口・二地域居住



Kaeru-Tabi-Project

新たな旅行需要の創出



仲間となって行動
地域しごと・家業・事業を
旅先でサポート



人材不足の一時的な補てん
効果も (さかとケ等)



01 レジャー延長型

帰る旅+従来型レジャーでもリピート来訪



経営・事業支援
パートナーへ

02 ライフデザイン型
スキル・強みを活かして
宿泊業経営者と
宿バックヤードのDX化を推進中
現地のお祭り運営もサポート



U・Iターン移住や
二地域居住へ

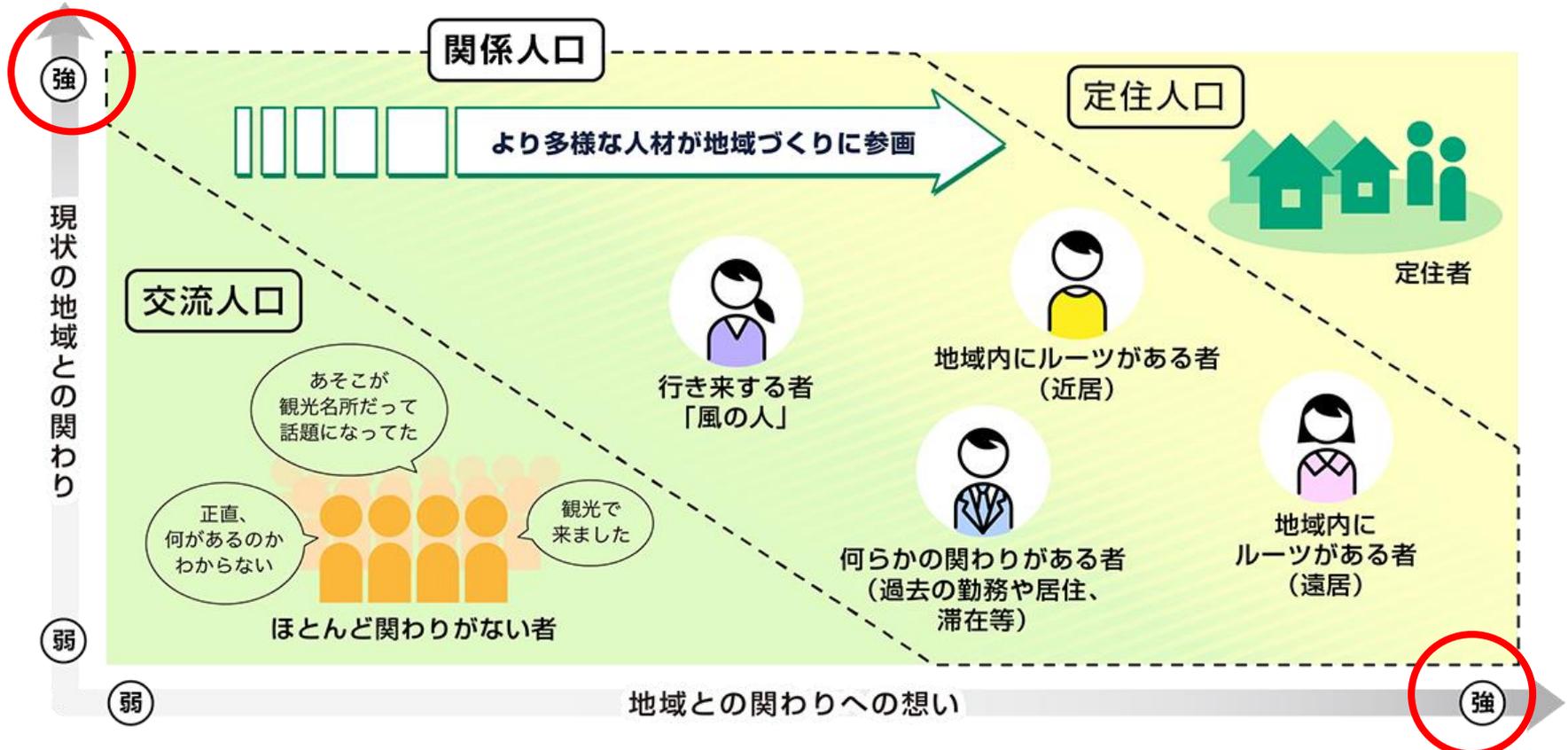


03 キャリア探求型

現地で新卒採用
Iターン移住へ



居住に関わらず (または定住者以上に)
地域への**思いも強く**
地域と**強く関わる**
新たな**人材を**発掘



出典：総務省「二地域居住・関係人口」ポータルサイト
<https://www.soumu.go.jp/kankeijinkou/about/index.html>

現状

日本のマジョリティは「おひとりさま」世帯へ

- 東京都：1.92人 ※1世帯あたり人員・平均
(出典：総務省「国勢調査」2020年)
- 国内：1人暮らし32.9%
※単独世帯のシェアが1位に
(出典：厚労省「国民生活基礎調査」2022年)

外部コミュニティ参加が諸外国より少ない傾向

- 友人知人や宗教、スポーツなどの外部コミュニティへの参加傾向が低いことが日本ならではの特徴といわれる
(出典：OECD加盟国で比較、Society at a Glance | OECD Social Indicators - 2005 Edition)

これから注目

- 自身の志向性にあった前向きな働き方・暮らし方の選択肢やヒント、新ロールモデルへの関心
- 多様な関わりを持ちたい、新コミュニティへの所属意欲の高まり

To C (個人旅行として)

都市生活では関わりの少ない
多様な住民と田んぼで協働
やさしい農ぐらし帰る農園

To B (企業・地域人材育成として)

関係性・場づくりを越境学習
帰る旅 地域ビジネスイノベーション
人材育成プログラム (研修)

「帰る旅」新展開 計画中の

これまでの取り組みに加え、おひとりさま、都市生活層が求める新ロールモデル・新コミュニティの発見やゆるい憧れを持つ移住・二地域居住を疑似体験するウェルビーイング系ツーリズムや帰る旅メソッドを発展させた人材開発研修など、新たな価値創出施策を計画中

観光振興セミナー 2025

オープン・ラボ Online

～観光の新たなカチ・カタチ～

ご視聴いただきありがとうございました

域外からの多様な来訪者と地域住民・事業者が交わる機会を創出し
「旅行の新たな可能性」、「地域の持続可能性」を探求していきます

じゃらんリサーチセンター 客員研究員 北嶋 緒里恵 orimorin@r.recruit.co.jp



to事業者行政向け:帰る旅研究会のお知らせ

Facebookグループ

<https://www.facebook.com/groups/1155981372889489/>



【ご注意：本資料の転載・複製での利用について】

- 本資料は、株式会社リクルート（じゃらんリサーチセンター）の著作物であり、著作権法に基づき保護されています。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。

事前に当社までご連絡ください。使用用途によって転載・複製をご遠慮頂く場合もございます、予めご了承ください。

※問い合わせ先

【メディア・報道機関の皆様】株式会社リクルート 広報担当 <https://www.recruit.co.jp/support/form/>

【その他企業・自治体・一般の皆様】じゃらんリサーチセンター事務局 E-mail : jalan_rc@r.recruit.co.jp

- 本資料は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料を利用する場合にはお客様の判断で利用してください。
- また、資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。



▲本講演資料はこちらのQR
コードからDLいただけます